

第6学年 体育科学習指導案

令和2年11月30日(月)
授業者 稲田 修士

1 単元名 Rey!Wa!JUMP ～みんなでこえろ75センチ～ (陸上運動)

2 授業づくりの構想

(1) 運動の持つ特性

陸上運動は、友だちと記録を競争したり、自分の記録に挑戦したりするところに楽しさや喜びがある運動である。特に走り高跳びは、リズムカルな助走から力強く踏み切って跳び、バーを跳び越して着地する動きの中で、自分の目標とする高さを跳び越えることに面白さや楽しさがある。

また、バーを低い位置から高い位置に変えていくという、条件の難易度を上げていく中で、新たに設定した高さを跳び越せるようになったときに喜びを感じることができる。助走や踏み切り、空中姿勢や着地と局面毎の動きが明確であるため、自分の動きを走り高跳びの連続図や手本の動きと比べることにより、動きのポイントを見付け、そのポイントを踏まえ、自分の課題を明確にすることができる。

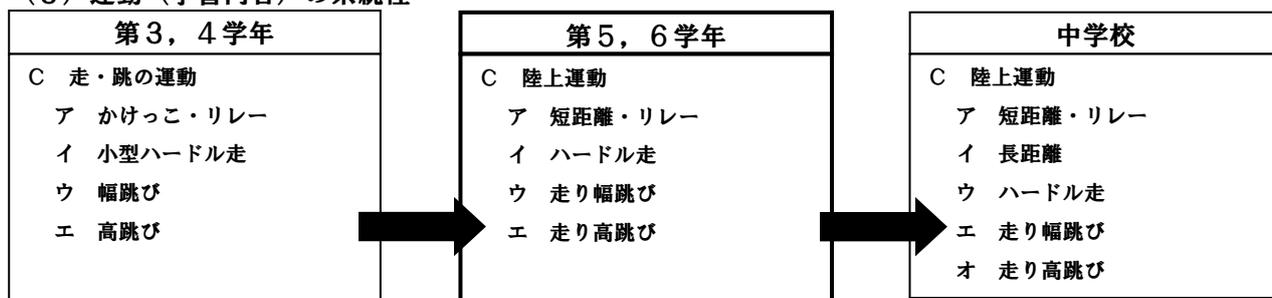
目標の達成を目指す中で、友だちと協力することの大切さや友だちのよさに気付くことができる。また、自己の動きを調節する力や力強さを高めることができる運動である。

(2) 児童の実態

男子3名、女子8名の本学級の児童は、ほぼ全ての児童が体育が「好き」と答えている。これまでの体力テストの結果でも、多くの項目で全国の平均値を超えており、運動ができることが、運動に対して肯定的な印象を与えていると考える。一方で、事前のアンケートでは、「走り高跳びは好きですか」という質問に対して、「はい。」ではなく、やや肯定を示す「どちらかといえば、はい。」を選んだ児童が半数以上いた。その理由としては、「跳ぶ運動は苦手。」「バーに当たると痛いから。」といったものが見られた。

児童は、4年時に高跳びを学習し、リズムよく助走をして、自分に合った足で踏み切ることなどを学習している。助走のリズムでは、「イチ・ニ・イチ・ニ・イチ・ニ・サーン」など、オノマトペを使用した学びを経験している。また、例年行われていた陸上記録会に向け、個別に走り高跳びの練習をした経験を持つ児童もいる。この児童がこれまでに習得した技能も学習に生かしていきたい。

(3) 運動(学習内容)の系統性



(4) 単元の目標

【知識及び技能】

走り高跳びの行い方を理解し、リズムカルな助走から力強く踏み切って、走り高跳びをすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

走り高跳びの動きの中で助走、踏み切り、振り上げ足の動きのポイントを踏まえ、目標とする動きと取り組んだ動きを比べて自分の課題を見付け、課題に合った練習方法を選び、考えを伝えることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

積極的にグループでアドバイスし合い、安全に気を付けながら、走り高跳びに取り組もうとすることができるようにする。

(5) 学びへの働きかけ（指導の意図）

1 指導のポイント 「育てたい資質・能力に合わせた学習形態」

個々の課題に対する主体的な学びがより活発に進むよう、3～4人のグループを作り互いに協力したり、アドバイスをし合ったりして学習に取り組むようにする。

単元はじめの記録会における記録を元に、その時点での、記録および既習による技能の定着の度合い（上・中・低位）がバランスよく1グループに所属するようなグループ分けを行う。各グループの上・中位の児童は、学習で得た知識を、自らの動きに変換し表現することが低位の児童に比べて容易であると予想されることから、グループでの課題解決の質を高めるとともに、低位の児童の支援にもつながると考える。

走り高跳びの運動が持つ特性から、児童は自然と個々の記録の伸びや他者との競争を意識して学習に取り組むと考える。本単元では、他者と共に支え合い高め合う児童の育成を目指し、学級全員の記録の合計がどこまで伸びるかを中心目標に据えて学習に取り組むようにする。目標記録は、3段階のレベル（レベル1：1人平均3cm向上相当の30cm、レベル2：1人平均5cm向上の55cm、レベル3：1人平均7cm向上相当の75cm）に分け、1段階クリアでもより高い目標に向けて高め合うようにする。

2 ICT機器の活用 「情報の活用・自己の動きの変容認識・学習評価」

本単元では、体育学習の効果を向上させる目的でICTを以下の3通りの場面で活用する。

① 課題解決につながる情報の活用

タブレット端末等を活用し、Web上の情報を積極的に活用する。情報は0から収集するのではなく、教師が児童の持つであろう課題を想定し、事前に課題解決に活用できそうなものを取捨選択しておく。

② 自己の変容を認識するための活用

タブレット端末の動画撮影機能を活用することで、児童が自分や友だちの動きを明確に捉えることができ、課題解決のポイントとなる動きに対して的確なアドバイスを発信したり受け取ったりすることが可能になる。また、授業支援アプリを活用し、毎時間の各自の動きを動画で記録しておくことで、自分や友だちの動きの変容を味わうことができ、記録の伸びだけでなく、自己の動きの変容という運動が持つ楽しさや喜びにもつながりたいと考える。

③ 学習評価のための活用

②にも記したように、毎時間の動画を記録することは、児童が動きの変容を味わうことのみには生かされるのではなく、教師が児童の見取りをより適切に行い、その後の授業改善や確かな学習評価の面においても有効に活用できる。

3 教具の工夫 「運動時間の確保と安全への配慮（恐怖心の解消・軽減）」

毎時間の練習の場では、グループごとに簡易の支柱を準備し、個の運動時間を確保していく。バーの代わりにゴムひもを使用する。ゴムひもの両端は洗濯ばさみで支柱に取り付けるようにし、児童が跳び越える際にゴムひもに引っかかった場合に簡単に支柱から外れるようにし、支柱転倒による事故防止を図る。

また、事前のアンケートに挙がっていた、「バーに当たると痛い」という児童の恐怖心を軽減することを考え、記録測定時のバーは、芯の部分を竹にして軽量化を図り、その外周にパイプなどの保護に使うスポンジのカバーを巻き接触時の痛みを和らげる工夫を行う。

4 言語活動 「視点を明確にした対話」

児童が課題を解決していく際、具体的にどこを意識するのかという課題解決の視点を明確にし、全体で共有しながら学習に取り組むことで、「よくなったよ。」などの抽象的な励ましの言葉ではなく、「腕のふり上げができてたね。」「上体が前に倒れる感じになっているよ。」など、体育における言語活動である、具体的な動きに対しての対話がより活発に行われるようになると考える。

5 単元における「する・みる・支える・知る」の視点

児童が将来、生涯にわたって、ライフステージに合わせた多様な運動・スポーツの楽しみ方をする中で、運動に親しみ、心身の健康の保持増進を図ったり、他者や地域とのつながりを持ち、スポーツを介してコミュニティを形成したりするスポーツライフの実現を目指す。そのために本単元において、「する」では、走り高跳びをすること、自分の体の動かし方をつかむこと。「みる」では、友達の動きを目で見、ICTを用いて自己や友だちの動きを観察し、よりよい動きや課題を発見すること。「支える」では運動の準備をしたり、安全な場をつくったりすること、また、友だち同士、アドバイスし合い、応援し合って高め合うこと。「知る」では、世界や日本のトップジャンパーの姿や、同年代の児童の跳躍の姿を見ることで、動きの相違点を知ったりすること。

これらの見方・考え方を働かせることで、様々な運動に興味を持ち、より広い視野のもとで、どうしたらよりよくなるのかと、身体を使いながら考え、友だちとアドバイスを送り合いながら課題に向かっていく児童が育成されると考える。

(6) 単元の流れ及び評価の計画

		1	2	3	4 (本時)	5	6	
主なねらい		学習の進め方を理解しよう。	リズムカルな助走から力強く踏み切って、走り高跳びをしよう。			自己の課題にあった方法で練習し、自己記録に挑戦する。		
核となる学習内容		・学習のねらいと進め方	リズムカルな助走	自分に合った助走距離 自己の記録への挑戦	力強い踏切 高く跳ぶ動き	自己の課題に適した解決方法の選択 自己記録への挑戦		
学習活動（「わかる・できる・ためす」 ／「いかす・チャレンジする」）		・オリエンテーション ・準備の仕方、安全な活動の仕方 ・試しの記録会	<やってみよう> 輪とび（ケンパー遊び） イチ・ニのリズム 3歩跳び リズム高跳び					
			活動① 高く跳ぶポイントを身に付けよう！			活動② 「より高く！より美しく！ 自分の記録を伸ばそう！」		
		助走 <活動①> 助走のポイントを見つけて自分の動きに取り入れる。 <活動②> 共有した知識を場の工夫をして練習する。	助走距離 <活動①> 既習の助走に合った自分の助走距離を見つける。 <活動②> 記録測定（中間）	踏切 <活動①> 踏切りのポイントを見つけて自分の動きに取り入れる。 <活動②> 共有した知識を場の工夫をして練習する。	課題別グループに分かれて、練習を行う。 <場①> 助走の場 <場②> 踏切りの場 <場③> ぬき足の場 <場④> まとめの場		令和ジャンプ記録会 みんなでこえろ！センチ！	
		まとめの動画撮影・振り返り						
評価の計画	知・技	①（観察）	③（観察・ICT）	②（観察・ICT）	③（観察・ICT）		②（観察・ICT）	
	思・判・表		②（観察）		②（観察）	①（観察）		
	主	④（観察）		③（観察）		②（観察）	①（観察）	

具体的な評価基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①走り高跳びの行い方を理解している。 ②試技の回数やバーの高さの決め方などのルールを決めて競争したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりすることができる。 ③リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。	①自己の能力に適した課題解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫している。 ②自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	①走り高跳びに積極的に取り組もうとしている。 ②約束を守り助け合って運動しようとしている。 ③勝敗を受け入れ、仲間の考えや取り組みを認めようとしている。 ④場や用具の安全に気を配っている。

3 本時の学習 (4/6)

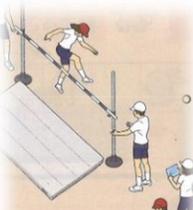
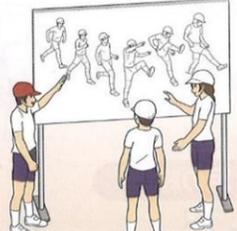
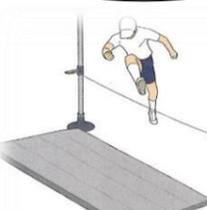
- (1) 本時の目標
- ・リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができるようにする。【知識及び技能】
 - ・自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力, 判断力, 表現力】

【現力】

- ・約束を守り助け合って運動することができるようにする。【学びに向かう力, 人間性等】

- (2) 準備 簡易支柱 ゴムひも i-Pad 振り返りボード わたしたちの体育

- (3) 展開

学習活動	児童のつぶやき	言葉かけ・教え合い	核となる言葉かけ	教師の支援 (○, 吹き出し) と評価★
1 場の準備をし, 簡単なストレッチとやってみようで予備運動を行う。(8分)	児童のつぶやき	言葉かけ・教え合い	核となる言葉かけ	教師の支援 (○, 吹き出し) と評価★
2 本時のめあてを確認する。(5分) 高く跳ぶために, 踏切りの場面ではどんなことを意識する。 力強い踏み切りから高く跳ぼう。	児童のつぶやき 力強く地面をける。 高く跳ぶための視点は, 踏み込みや足の使い方にあるそう ふり上げ足をしっかり上げる。	言葉かけ・教え合い	核となる言葉かけ ひざの使い方もあるか…	教師の支援 (○, 吹き出し) と評価★ ○ボードに本時の活動を掲示し, 学習の見通しを持たせる。 ○既習の事項と, 本時の学習につながる類似の動き(アナログ)を取り入れた予備運動を行う。 ○課題を解決する視点を明確にし, 本時の課題を全員で共有する。
3 運動のポイントを見つけ, 運動する。<活動①> (10分) 【視点に沿って, 運動のポイントを見つけていく】 	児童のつぶやき すごい腕上げてない?【知】 足もすごい勢いでふり上げてる。【知】 今まではどうだったのかな。【みる】 腕ふりもっと早くしてみるといいかも。【支】 腕ふりはこんな感じかな。【する】 一本の線ってこんな感じかな。【する】 上体を起こすには, 一本の線にする感じか【知】	言葉かけ・教え合い 分かったことを積極的に取り入れてみよう。	核となる言葉かけ	教師の支援 (○, 吹き出し) と評価★ ○友だちにアドバイスしたり, 励ましの声かけをしたりしている児童や意欲的に運動に取り組んでいる児童へ積極的に賞賛する。 ○知識の理解に留まることのないよう, 積極的に動きに取り入れてみるよう声掛けをする。
4 めあてに対する視点で話し合う。(5分) 高く跳ぶにはどんなことを意識するとよかったかな。 	児童のつぶやき 踏み切るときに腕や足のふり上げを早くする。【知】 地面を踏むときに姿勢が1本の線になるようにする。【知】	言葉かけ・教え合い 踏み切りの瞬間やその直後を意識できる練習を取り入れてやってみよう。	核となる言葉かけ	教師の支援 (○, 吹き出し) と評価★ ○活動①で分かったことや, やってみて感じたことなどを出し合い, ボードにまとめていきながら, 動きのポイントを共有する。 ○本時で身に付けたい知識・技能の共有が不十分になることがある場合, 教師の発問によって気づきを促す。 ★自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。【思考・判断・表現】
5 ポイントを取り入れて, 跳んでみる。<活動②> (10分)  ・ふみ切り板を使って  ・ゴムを使って	児童のつぶやき 踏み切り板のところで上体を起こす。【する】 イチ・ニ・サンのリズムと組み合わせるといいね。 腕ふりが小さくなってよ。【支】 足をしっかりと上げて…。【する】 今の動画で見ると, もっと足をのばしたら越えられたかもよ。【み・支】	言葉かけ・教え合い ポイントが取り入れてあるか動画で確認しよう。	核となる言葉かけ	教師の支援 (○, 吹き出し) と評価★ ○話し合いの活動で出たポイントが意識できる練習の方法を知る。 ★リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。【知識・技能】 ○友達のコツを意識して跳んでみるように促す。
6 振り返りタイム・片付け (7分) 振り返り板をもとに, 自分や友だちができるようになったことを話し合い, 振り返りカードに記入。 力強く踏み切るためには, 上体を起こしておくことが大切だと分かった。 強く踏むだけでなく, 腕や足のふり上げも大切。 早く記録を測ってみたい。 次は自分の課題に合わせて自分の跳び方を仕上げていこう。	児童のつぶやき	言葉かけ・教え合い	核となる言葉かけ	教師の支援 (○, 吹き出し) と評価★ ○本時のめあてに対するできばえ, 楽しさの観点から振り返りを行う。 ○次時のめあてを確認する。